

## 2 水分と乾物率

サイレージの水分によって、サイレージの投入量を増減しましょう。

### (1) 水分と乾物量の考え方

牛が実際に食べるサイレージの量は水分を乾かした「乾物量」を基に考えます。

毎日同じ現物量を給与すると、サイレージの水分変化によって乳牛が実際に食べる乾物量が変わってしまいます。人間で言えば、ご飯とおかゆでは茶碗1杯の量でも、実際のお米の量が違うようなものです（図1）。

毎日、同じ乾物量を食べさせるためには、サイレージの給与量を水分によって増減する必要があります。

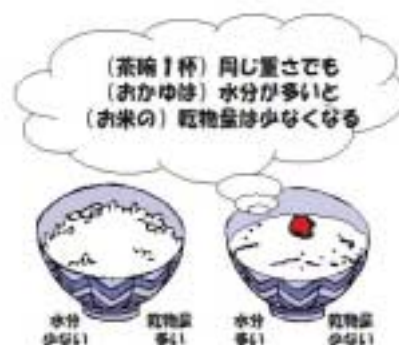


図1 水分の変化による乾物量の変化のイメージ

### (2) 水分の変化による注意点

TMRの場合、水分の変化によってサイレージの給与量を変えないと、濃厚飼料とサイレージの割合が変わってしまい乳牛の体調が不安定になります（写真7）。

- ・水分が低くなった場合…サイレージの乾物量が増えるので残飼が増え、乳量低下やエネルギー不足につながる
- ・水分が高くなった場合…サイレージの乾物量が不足し、濃厚飼料の割合が相対的に増えて軟便になるなど体調不良につながる



写真7 同じ重さのサイレージでも乾かすと量がこんなに違う。左は低水分サイレージ、右は高水分サイレージ

### (3) 水分変化のとらえ方

水分の変化は、手で握った時の湿り具合や重さ、残飼量などが変わることです。しかし、正確な水分の把握は感覚では難しいので、乾燥機や電子レンジ、生ごみ処理機などで乾燥させて計測します（写真8、図2）。

特に、サイロが変わるときや違う畑の原料草が変わる場合は、乾物給与量が同じになるよう調整が必要です。



写真8 生ごみ処理機を使って水分を計測するときの道具



図2 サイレージの水分変化によるイメージ